

# 医療福祉制度と暮らし 2単位

担当教員：李 忻

医療福祉制度が人々の、日々の暮らしにもたらす影響について学ぶ

## 講義目的・到達目標

### 高齢者の医療保障の制度の仕組みについて学ぶ

加齢と医療費、生涯医療費、後期高齢者医療制度について学ぶ。後期高齢者医療制度が高齢者にとって、どのような制度であるのかについて討論する。後期高齢者医療制度と現役世代医療保険制度との関係、後期高齢者医療制度の財政的な仕組みなどを理解することを目標とする。

### 福祉の総合相談を通じての社会福祉の諸制度及び福祉サービスの活用について学ぶ

福祉の総合相談は社会福祉士が中心となって、地域包括支援センターの他の専門職種をはじめ、地域の関係機関等と連携をしながら実施されている。総合相談・支援及び権利擁護の業務は、地域の高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して、その人らしい生活を継続していく上で大変重要な役割を果たしている。高齢者や障がい者の日々の暮らしを支えるためには、総合相談の業務はどのように行われているのか、地域におけるネットワークの構築、虐待の現状及びその対応策、成年後見制度の活用、消費者被害の防止等について理解することを目標とする。

## 講義の構成

### 講義の流れ

まず、担当教員が2日間のスクーリングの構成、目的、達成する目標などについて説明した上で、加齢と医療費、生涯医療費、後期高齢者医療制度の基本的な仕組み、財政状況、問題点等について厚生労働省が発表したデータに基づいて講義をする。後期高齢者医療制度については、様々な批判を受けながらスタートしたという背景を踏まえて、制度の負担及び受益の視点から、受講生の皆さんと共に、この制度の問題点及びその持続可能性について、データに基づいて評価を行う。さらに、福祉の総合相談と社会福祉諸制度の活用や、福祉サービスの活用については、総合相談業務の基本的な内容や権利擁護、福祉サービスの根拠法令等についての講義を行った後に、事例検討及びグループワークを通じて、自ら考えながら学ぶ。

1 後期高齢者医療制度の仕組みを講義を通じて説明する

2 後期高齢者医療制度における高齢者の自己負担及び後期高齢者医療制度による医療給付について学ぶ

3 後期高齢者医療制度と高齢者の生活について考える

4 高齢者や障がい者の暮らしを支える福祉の総合相談の技術について講義とグループワークを通じて学ぶ

5 ケース・スタディーを通じて高齢者虐待や高齢者の権利擁護について学ぶ

6 レポート形式の科目修了試験

### 講義のポイント

基礎講義では、後期高齢者医療制度について、漠然とした議論、感情論が先走りした議論ではなく、厚生労働省の発表した正確なデータに基づいて行う。また、社会福祉の総合相談の内容やその業務の流れ、社会福祉サービスの活用については、現場で活躍している社会福祉士をゲスト講師として招き、実際に総合相談がどのように行われているのかなどについて講義を行った上で、生きた事例検討も行う予定である。

## 受講するにあたって

- ①事前学習のすすめ オンデマンド科目「社会保障論」を履修した上での受講を勧める。
- ②参考図書 各年版厚生労働白書
- ③評価基準 レポート及び2日間の授業参加によって、成績評価を行う。レポートは、講義で紹介したデータ、概念などを正確に引用しながら、問題意識、論点、根拠、結論、考察を行ったレポートは高く評価される。